

令和4年度（2022年度）新規研究課題

課題番号：R4-03

課題名：県オリジナルかんきつ（「南津海シードレス」・「せとみ」）
における施設栽培拡大に向けた低樹高栽培技術の実用化

研究期間：令和4年～令和8年（2022年～2026年）

研究担当：農業技術部柑きつ振興センター

1 研究の背景

本県では、国産かんきつの端境期に出荷できる「南津海シードレス」や、市場評価の高い「せとみ」の県オリジナルかんきつの生産振興に取り組んでいる。

しかし、「南津海シードレス」は3月～4月が収穫期のため、寒害や鳥害のリスクが非常に高く、安定生産には少加温ハウスなどの施設栽培が必要である。また、「せとみ」は、袋かけ労力の削減や高品質化のためには、施設栽培は有効な対策である。よって、「南津海シードレス」と「せとみ」の低軒高ハウスを活用した低樹高栽培技術の実用化を図る必要がある。

2 目的

「南津海シードレス」および「せとみ」において、低樹高化のための台木および中間台の利用効果を明らかにするとともに、成木期までの収量、果実品質および作業性等を検討し、低軒高ハウス栽培の実用化を図る。

3 研究内容

- ・わい性台木や中間台利用によるわい化効果を確認し、既存樹高3.2mを目標樹高を2.2m以内（3割減）とする。
- ・低樹高化による収量性、果実品質および作業性に及ぼす影響を調査する。
- ・低樹高化による低軒高ハウス栽培を実用化するため、栽培マニュアルを作成する。

4 研究のポイント

- ・「南津海シードレス」の低樹高化による低軒高ハウス栽培では、作業負担の軽減と施設導入経費の削減が可能となり、かんきつ産地での施設導入が進み、安定生産や生産拡大に寄与できる。
- ・「せとみ」の低樹高化による低軒高ハウス栽培では、袋かけ労力を削減でき、高品質栽培が可能となる。
- ・中間台の品種や高接ぎ位置による樹勢コントロールの目安が明らかとなることで、他の強樹勢品種への応用が可能となる。

県オリジナルかんきつ（「南津海シードレス」・「せとみ」） における施設栽培拡大に向けた低樹高栽培技術の実用化

<カンキツ産地の維持に期待される県オリジナル品種>

「南津海シードレス」

- ・平成25年品種登録
- ・「南津海」の種なし品種
- ・5月以降の国産かんきつ端境期に出荷できる

「せとみ（ゆめほっぺ）」

- ・平成16年品種登録
- ・プチプチの食感と高糖度な良食味で市場評価が高い

<栽培上の問題点と取組内容>

栽培上の問題点

「南津海シードレス」

- ・3～4月が収穫のため、寒害や鳥害リスクが高い
- ・樹が高くなりやすく、高さの高い施設が必要（施設管理の危険や作業負担が大きい、導入コストが高い）

「せとみ（ゆめほっぺ）」

- ・1月下旬が収穫で、寒害リスクが高い
- ・樹が高くなりやすく、袋かけ作業等の負担が大きい



取組内容

- ・わい性台木や中間台利用によるわい化効果の確認
- ・収量性、果実品質および作業性に及ぼす影響
- ・低樹高化による低軒高ハウス栽培の実証



「南津海シードレス」

施設管理の作業負担軽減・施設導入コストの削減による施設導入の推進、安定生産（R12 栽培面積目標 8 ha）

「せとみ（ゆめほっぺ）」

施設栽培による無袋・高品質果実生産（R12 栽培面積目標50ha）